



HANKYU HANSHIN LETTER

株主通信

2010年6月発行・VOL.15

【さいと 彩都棚田ファーマークラブ】

大阪府北部に広がる743haの丘陵地での街づくり「彩都」。阪急電鉄株及び阪急不動産株では、休耕田を利用して、彩都にお住まいの方々が地元農家やボランティアの方々と一緒に、米や野菜の植え付けから収穫まで行い、交流を深めるとともに、棚田や里山の景観を守る活動を進めております。自然を大切に思う心、農作業の大変さ、難しさを、子ども達に学んでいただく機会にもなっております。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当社の2009年度の連結決算につきましては、7月及び10月に業績予想の下方修正を発表いたしました。その後コストの削減等により、営業利益、経常利益は当初見込みを若干ではありますが上回る数値を計上いたしました。その結果、配当につきましては、従来どおり期末に一株あたり5円の配当をさせていただくこととなりました。これからも当分の間は、厳しい事業環境が続くと思料されますが、引き続きグループをあげて、業績向上に取り組んでまいりますので、何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

次に、最近の主な取り組みですが、阪急電鉄株が参画する大阪駅北地区先行開発区域プロジェクトや、同社がJR新大阪駅北側で検討を進めてきた新大阪阪急ビルの新築工事に順次着手いたしました。大阪駅北地区先行開発区域プロジェクトでは、大阪・関西の玄関口にふさわしい新たな拠点の形成を進めてまいります。また、新大阪阪急ビルは、阪急阪神ホテルズによる宿泊主体型ホテル「remm新大阪」のほか、オフィス・店舗・バスターミナルからなる地上17階建ての複合ビルで、2012年秋の開業を目指しております。

一方、建て替え工事を進めている梅田阪急ビルでは、昨年9月の第Ⅰ期棟低層部(百貨店部分)の開業に続き、本年4月にオフィスタワーが竣工し、5月6日にオープンいたしました。現在は2012年春のグランドオープンに向けて、2工区(北側)の工事を進めております。

さらに、阪神電気鉄道株では、本年3月に阪神甲子園球場のリニューアル工事が完成するとともに、甲子園歴史館がオープンし、連日多くのお客様にご来場・ご来館いただいております。また7月より、大阪中島公園都市(大阪市西淀川区)において、総区画数254区画という大阪市内最大級の戸建分譲プロジェクト「大阪中島公園都市 ハピアガーデン四季のまち」第Ⅰ期分譲を開始する予定としております。

今後とも、グループ全体の一層の発展を目指して邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年6月



代表取締役社長

角 和 夫

目 次

株主の皆様へ	1	大阪駅北地区先行開発区域プロジェクト新築工事着工	11
2009年度 連結・単体決算の概要	2	トピックス Topics	12
「阪急阪神ホールディングスグループ 2007 中期経営計画」の 今後の見通しについて	8	環境保全への取り組み	18
		株主メモ	19

▶ 経営成績の概況

当連結会計年度のわが国経済は、一部の経済指標において回復の兆しがみられたものの、企業収益が低水準で推移するなか、設備投資の減少や雇用・所得環境の悪化等により、厳しい状態が続きました。

この間、当社グループにおきましては、2012年度を目標年度とする「阪急阪神ホールディングスグループ 2007 中期経営計画」を実現すべく、グループ経営機能を担う当社の下、中核会社を中心に、各コア事業の競争力強化を図るとともに、コア事業間の連携を通じてグループ総合力の発揮に努めました。

しかしながら、景気低迷や新型インフルエンザの影響等により、エンタテインメント・コミュニケーション

事業を除く各コア事業が厳しい状況で推移したこと等により、営業収益は6,532億87百万円と前連結会計年度に比べ304億27百万円減少いたしました。営業利益は、各コア事業ともコストの削減に努めましたが、減収による影響に加えて、減価償却費の増加等により701億26百万円と前連結会計年度に比べ76億96百万円減少し、また経常利益は504億9百万円と前連結会計年度に比べ70億35百万円減少いたしました。当期純利益は、持分法適用関連会社株式に計上されていた持分法のれん相当額を一括償却し、特別損失に計上したこと等により107億93百万円と前連結会計年度に比べ97億57百万円減少いたしました。

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年度	653,287	70,126	50,409	10,793
対前年同期増減額	△ 30,427	△ 7,696	△ 7,035	△ 9,757
対前年同期増減率	△ 4.5%	△ 9.9%	△ 12.2%	△ 47.5%

▶ 財政状態の概況

当連結会計年度末の資産合計は、受取手形及び売掛金が減少いたしました。設備投資や神戸高速鉄道(株)の連結子会社化に伴い有形固定資産が増加したこと等により2兆3,373億31百万円と前連結会計年度末に比べ299億99百万円増加いたしました。負債合計は、設備投資関係等の未払金が減少した一方で、有利子負債が

増加したこと等により1兆8,566億98百万円と前連結会計年度末に比べ232億44百万円増加いたしました。また、純資産合計は、利益剰余金の増加等により4,806億33百万円と前連結会計年度末に比べ67億54百万円増加し、自己資本比率は20.1%となりました。

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2009年度	2,337,331	480,633	20.1	371.70
2008年度	2,307,332	473,878	20.1	366.96
比較増減	29,999	6,754	0.0	4.74

※当社グループでは自己資本比率を(自己資本)÷(総資産)として算出しております。なお、自己資本は、純資産から少数株主持分を差し引いた金額を表しております。

連結決算の概要

▶ 連結貸借対照表

科 目	金 額
資産の部	百万円
流動資産	
現金及び預金	23,792
受取手形及び売掛金	78,969
販売土地及び建物	126,316
商品及び製品	8,138
仕掛品	5,445
原材料及び貯蔵品	3,791
繰延税金資産	14,623
その他	33,967
貸倒引当金	△ 2,023
流動資産合計	293,021
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	606,498
機械装置及び運搬具(純額)	58,372
土地	888,431
建設仮勘定	134,215
その他(純額)	15,251
有形固定資産合計	1,702,769
無形固定資産	
のれん	43,966
その他	17,989
無形固定資産合計	61,955
投資その他の資産	
投資有価証券	227,826
繰延税金資産	4,996
その他	54,556
貸倒引当金	△ 7,793
投資その他の資産合計	279,585
固定資産合計	2,044,310
資産合計	2,337,331

(注1)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
(注2)消費税等の会計処理は税抜き方式によっております。

2010年3月31日現在

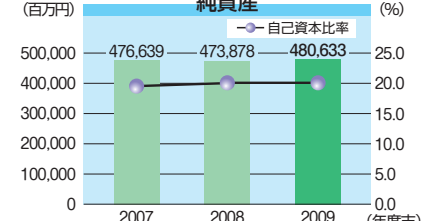
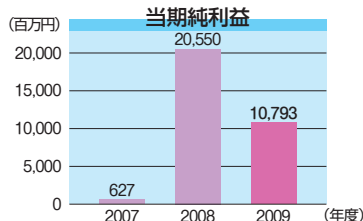
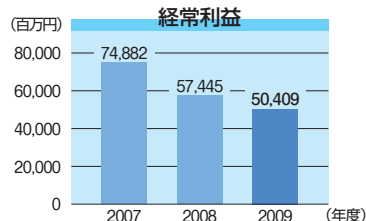
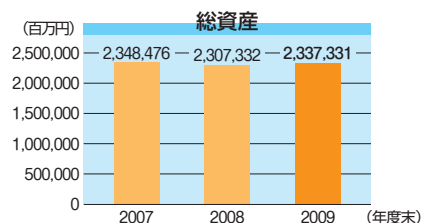
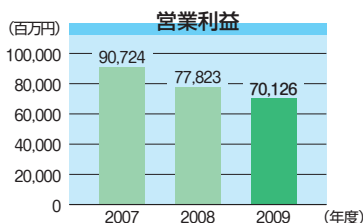
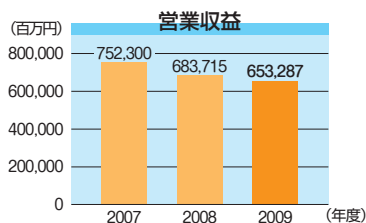
科 目	金 額
負債の部	百万円
流動負債	
支払手形及び買掛金	46,726
短期借入金	287,346
1年内償還予定の社債	25,000
未払法人税等	4,008
未払費用	17,386
賞与引当金	3,986
その他	139,417
流動負債合計	523,872
固定負債	
社債	135,000
長期借入金	832,018
繰延税金負債	151,804
再評価に係る繰延税金負債	6,839
退職給付引当金	58,487
役員退職慰労引当金	755
投資損失引当金	6,486
長期前受工事負担金	15,639
その他	125,794
固定負債合計	1,332,825
負債合計	1,856,698
純資産の部	
株主資本	
資本金	99,474
資本剰余金	150,027
利益剰余金	232,135
自己株式	△ 3,808
株主資本合計	477,829
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	△ 8,075
繰延ヘッジ損益	△ 845
土地再評価差額金	1,956
為替換算調整勘定	△ 1,736
評価・換算差額等合計	△ 8,700
少数株主持分	11,505
純資産合計	480,633
負債純資産合計	2,337,331

▶ 連結損益計算書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

科 目	金 額
営業収益	百万円
営業収益	653,287
営業費	
運輸業等営業費及び売上原価	550,476
販売費及び一般管理費	32,684
営業費合計	583,160
営業利益	70,126
営業外収益	
受取利息	168
受取配当金	933
負ののれん償却額	13
持分法による投資利益	3,455
雑収入	2,397
営業外収益合計	6,968
営業外費用	
支払利息	23,627
雑支出	3,058
営業外費用合計	26,685
経常利益	50,409
特別利益	
固定資産売却益	394
工事負担金等受入額	3,222
有価証券売却益	1,624
匿名組合投資利益	8,241
その他	2,384
特別利益合計	15,868
特別損失	
固定資産売却損	325
固定資産圧縮損	3,044
固定資産除却損	6,262
減損損失	4,751
貸倒引当金繰入額	1,064
投資損失引当金繰入額	126
持分法のれん相当額一括償却額	10,264
その他	6,538
特別損失合計	32,377
税金等調整前当期純利益	33,899
法人税、住民税及び事業税	7,226
法人税等調整額	15,357
法人税等合計	22,583
少数株主利益	523
当期純利益	10,793

(注1)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
(注2)消費税等の会計処理は税抜き方式によっております。

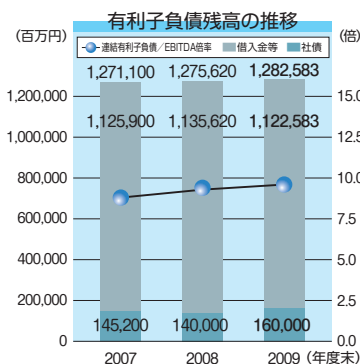


▶ 連結有利子負債

当連結会計年度については、事業子会社において設備投資を行ったこと、また神戸高速鉄道㈱が連結子会社となったこと等により連結有利子負債が増加しましたが、受取手形及び売掛金の回収並びに営業キャッシュフロー等で圧縮したことにより、当連結会計年度末における連結有利子負債残高は1兆2,825億83百万円となり、前連結会計年度末に比べて69億62百万円の増加にとどまりました。

なお、当社グループでは、連結有利子負債を収益力に見合った水準まで圧縮することを基本方針としており、財務の健全性を示す指標の一つである連結有利子負債／EBITDA（償却前営業利益）倍率は、2012年度に8.7倍となる見込みです。

※前連結会計年度より、会計基準の変更に伴い、連結有利子負債残高にリース債務を含んでいます。
※当社グループでは、EBITDAを（営業利益）+（減価償却費）+（阪急・阪神の統合に伴うのれん償却額）として算出しております。



単体決算の概要

第172期

▶ 貸借対照表

2010年3月31日現在

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部	百万円	負債の部	百万円
流動資産		流動負債	
現金及び預金	12	短期借入金	245,496
未収入金	12,381	1年内償還予定の社債	25,000
未収収益	1,894	未払金	3,551
短期貸付金	256,531	未払費用	2,456
前払費用	1	未払消費税等	18
繰延税金資産	97	未払法人税等	78
その他	129	預り金	5
流動資産合計	271,049	その他	248
固定資産		流動負債合計	276,854
有形固定資産		固定負債	
工具、器具及び備品（純額）	14	社債	110,000
建設仮勘定	2	長期借入金	722,212
有形固定資産合計	16	繰延税金負債	22,695
無形固定資産		その他	867
商標権	32	固定負債合計	855,775
ソフトウェア	93	負債合計	1,132,629
その他	8	純資産の部	
無形固定資産合計	134	株主資本	
投資その他の資産		資本金	99,474
投資有価証券	19,404	資本剰余金	
関係会社株式	558,598	資本準備金	149,258
長期貸付金	652,646	資本剰余金合計	149,258
長期前払費用	128	利益剰余金	
その他	1	利益準備金	280
投資その他の資産合計	1,230,779	その他利益剰余金	
固定資産合計	1,230,930	繰越利益剰余金	118,044
		利益剰余金合計	118,324
		自己株式	△ 2,252
		株主資本合計	364,805
		評価・換算差額等	
		その他有価証券評価差額金	5,107
		繰延ヘッジ損益	△ 561
		評価・換算差額等合計	4,545
		純資産合計	369,350
資産合計	1,501,980	負債純資産合計	1,501,980

（注1）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

（注2）消費税等の会計処理は税抜き方式によっております。

▶ 損益計算書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

科 目	金 額
	百万円
営業収益	
関係会社受取配当金	11,924
関係会社受入手数料	2,436
営業収益合計	14,360
営業費用	
一般管理費	2,170
営業費用合計	2,170
営業利益	12,190
営業外収益	
営業外収益合計	17,847
営業外費用	
営業外費用合計	20,196
経常利益	9,840
特別利益	
有価証券売却益	2,906
特別利益合計	2,906
特別損失	
有価証券評価損	3,768
特別損失合計	3,768
税引前当期純利益	8,978
法人税、住民税及び事業税	△ 6,420
法人税等調整額	6,942
法人税等合計	522
当期純利益	8,456

（注1）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

（注2）消費税等の会計処理は税抜き方式によっております。

▶ 剰余金処分

当社は、経営基盤と財務体質の強化に努めながら、安定的な配当を実施していくことを株主配当の基本方針としており、当期の期末配当につきましては、各コア事業の成長と財務体質の強化をバランス良く図りながら、安定的な配当を実施していくため、以下のとおりとなりました。

（1）株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金5円
総額 6,337,888,090円

（2）剰余金の配当が効力を生じる日

2010年6月17日

連結決算の概要

▶ セグメント別営業成績

当連結会計年度のセグメント別営業成績は以下のとおりとなりました。

都市交通事業

連結対象会社24社

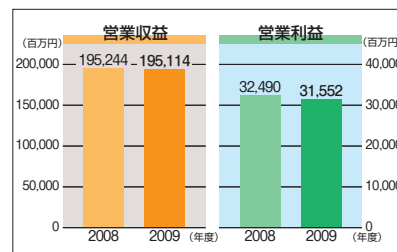
主要な会社 阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急バス、阪神バス等

鉄道事業では、2009年3月に開通した阪神なんば線が順調なスタートを切ったほか、当社グループ内での一体運営を企図して神戸高速鉄道(株)を連結子会社化するなど、鉄道ネットワークの拡充に努めました。

また、3月に、阪急京都線において、二酸化炭素の排出量が実質ゼロとなるカーボン・ニュートラル・ステーション「摂津市駅」を開業したほか、連続立体交差事業やバリアフリー化工事を推進するなど、鉄道施設の整備・改善に努めました。さらに、企画乗車券の発売や嵐山等の行楽地への臨時列車の運行など、旅客誘致を目的とした各種施策にも取り組みました。

バス事業では、2009年3月から阪急バス・阪神バスが発行するバスカードの全券種を共通化し販売促進に取り組むなど、事業の収益力強化を図ったほか、12月からは阪神バス(株)が尼崎市交通局の一部営業所の運行・整備業務等を受託するなど、事業拡大にも努めました。

しかしながら、当セグメントの営業成績は、景気低迷や新型インフルエンザの影響等により、減収減益となりました。



不動産事業

連結対象会社17社

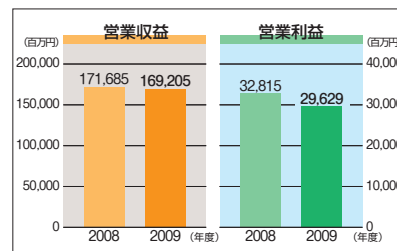
主要な会社 阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急不動産、阪神不動産、阪急阪神ビルマネジメント等

マンション分譲事業では、「ジオ グランデ茨木東中条さくら通り」「ザ・千里タワー」「ジオ甲子園ロー丁目」等を、宅地分譲事業では、「箕面・小野原レジデンス」「宝塚山手台レジデンス」「ハピアガーデン東加古川」等を分譲いたしました。

賃貸事業では、2008年11月に開業した「阪西西宮ガーデンズ」が、期を通じて堅調に推移いたしました。また、建て替え工事を進めている梅田阪急ビルでは、阪急百貨店が入居する百貨店Ⅰ期棟が竣工・開業いたしました。さらに、グループ各社が保有するオフィスビル・商業施設においても、稼働率の維持に注力しながら、管理運営コストの削減に取り組みました。

なお、大阪駅北地区(梅田北ヤード)の開発につきましては、3月に先行開発区域プロジェクトに着工したほか、その他の大規模開発事業につきましても、鋭意推進しております。

しかしながら、当セグメントの営業成績は、景気低迷の影響を受けた賃貸事業が減収となったこと等から、減収減益となりました。



エンタテインメント・コミュニケーション事業

連結対象会社16社

主要な会社 阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪神タイガース、宝塚クリエイティブアーツ、ペイ・コミュニケーションズ等

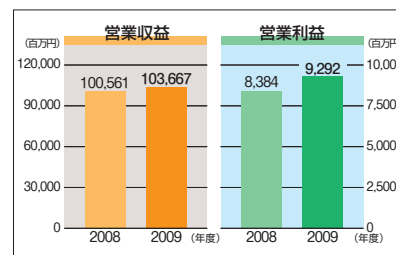
スポーツ事業では、阪神タイガースが、クライマックスシリーズ進出をかけたシーズン終盤まで健闘し、多くのファンの方々にご声援をいただきました。また、阪神甲子園球場では、3月に、すべてのリニューアル工事を完了するとともに、野球文化の振興への貢献という趣旨の下、新たに「甲子園歴史館」を開業いたしました。

歌劇事業では、2009年1月から宝塚大劇場・東京宝塚劇場において年間の興行数を従来の8興行から10興行に変更いたしました。初演以来7度目となる「エリザベート」や月組トップスターの退団公演が特に好評を博すなど、各公演とも好調に推移いたしました。演劇事業では、梅田芸術劇場において、ミュージカル「AIDAアイダ」や「ムサシ」など、話題性のある公演を催しました。

ケーブルテレビ事業では、トリプルプレイ(多チャンネル・インターネット・電話)サービスの営業に注力したことに加え、6月から開始した「DVD楽録り」サービスが好評であったこと等から、加入契約者数を順調に伸ばしました。

さらに、六甲山上施設では、「六甲山のスイスフェア」や「近さ実感!!六甲・有馬まわってお得キャンペーン」を開催するなど、魅力ある施設運営と集客活動に努めました。

これらの結果、当セグメントの営業成績は増収増益となりました。



旅行・国際輸送事業

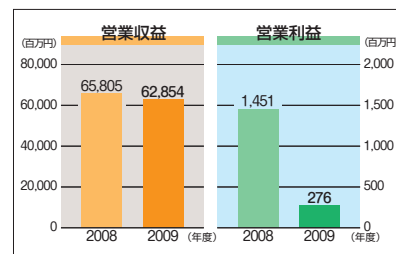
連結対象会社25社

主要な会社 阪急阪神交通社ホールディングス、阪急交通社、阪神航空、阪急阪神エクスプレス等

旅行事業では、新型インフルエンザの発生直後から、海外旅行を中心に予約のキャンセルが相次ぎました。その後、企画商品の投入を積極的に進めたこと等により集客状況は好転し、順調に推移しておりますが、新型インフルエンザの影響を払拭するまでには至りませんでした。

国際輸送事業では、2008年秋以降の世界経済の急速な悪化による大幅な需要の減少に歯止めがかかり、アジアを中心に回復傾向がみられるものの、欧米発着の荷動きは依然として低調に推移しており、事業全体としては厳しいものとなりました。

これらの結果、当セグメントの営業成績は減収減益となりました。



連結決算の概要

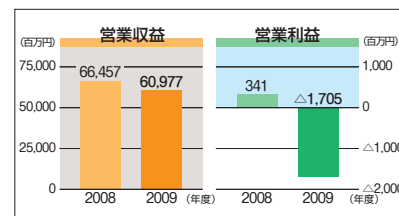
ホテル事業

連結対象会社 6 社

主要な会社 阪急阪神ホテルズ、阪神ホテルシステムズ等

ホテル事業では、景気の低迷等により個人需要及び法人需要が低調に推移するなか、「定額給付金フェア」や「龍馬のふるさと 高知フェア」等のキャンペーンを実施するなど、積極的な販売促進活動に努めたほか、インターネットを利用した自社宿泊予約サイトの機能向上や英語・中国語サイトの構築、ホテルカードの入会キャンペーンの実施など、営業力の強化に向けた施策を推進いたしました。さらに、業務プロセスの見直し等を通じて、事業運営体制の一層の効率化にも努めました。しかしながら、新型インフルエンザの影響も加わり、特に近畿圏のホテルを中心に、厳しい状況が続きました。

これらの結果、当セグメントの営業収益は減少し、営業損益は悪化いたしました。



流通事業

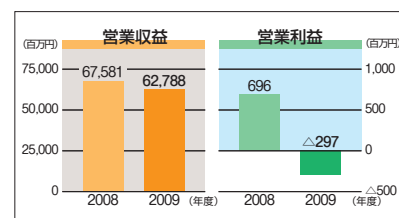
連結対象会社 4 社

主要な会社 阪急電鉄、阪急リテールズ等

流通事業では、個人消費の低迷を受け、厳しい事業環境にあるなか、沿線内において、阪神野田駅に書店「ブックファースト 野田アプラ店」、北大阪急行の千里中央駅に化粧品・服飾雑貨店「カラーフィールド 千里中央店」を出店したほか、首都圏や福岡市等の沿線外においても、各業態の店舗を新規に出店するなど、積極的な店舗展開を図りました。これらの新規出店による増収効果もありましたが、事業全体としては厳しい状況が続きました。

なお、4月から阪急・阪神がそれぞれ展開していたコンビニエンスストア事業を統合するとともに、ストアブランドを「アズナス」に統一いたしました。

また、前連結会計年度まで流通事業に含めていた連結子会社 1 社を、第 1 四半期から「都市交通事業」として取り扱ったこともあり、当セグメントの営業収益は減少し、営業損益は悪化いたしました。

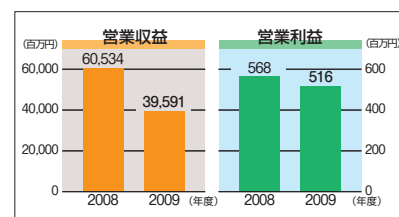


その他の事業

連結対象会社 12 社

主要な会社 ハンシン建設、山陽自動車運送等

その他の事業では、建設業における前連結会計年度の阪神なんば線関連工事受注の反動や、2009年 2 月に(株)ステーションファイナンス株式を売却し、外部化した影響等により、当セグメントの営業成績は減収減益となりました。



(注) セグメント別営業成績のグラフは、セグメント間の内部取引等を含めた金額を記載しております。

「阪急阪神ホールディングスグループ 2007 中期経営計画」の 今後の見直しについて

当社では、2012年度を目標年度とする「阪急阪神ホールディングスグループ 2007 中期経営計画」(2007年 3月26日付発表。以下「当初発表」という)について、毎年その進捗状況をチェックするとともに、事業環境の変化等を踏まえて見直しを行っております。今年も、2009年度までの進捗状況や前回の見直し(2009年 5月15日付発表。以下「前回発表」という)以降の事業環境の変化等を踏まえて見直しを行い、本年 5月14日に今後の見直しを発表いたしました。

今回の見直しのポイント

EBITDA(目標値の推移と今回見直しにおける計画値)

主要な経営指標のうち、EBITDAについては、当初発表では2012年度の目標値を「1,500億円以上」としておりましたが、2007年度の業績が好調に推移するとともに、統合効果についても順調に発現し、その後もさらなる上積みが見込める見込みとなったことから、「1,600億円以上」に引き上げました(2008年 4月 3日付発表)。しかしながら、その後、リーマンショックに端を発した2008年秋以降の経済情勢等の急激な悪化に伴い事業環境が激変したこともあり、前回発表では上記の引き上げ後の目標値「1,600億円以上」を下回る「1,540億円」を2012年度の計画値としておりました。

2009年度は、景気の低迷に加えて新型インフルエンザの影響等もあり、足元の営業収益は計画値を下回って推移しましたが、各コア事業において徹底したコスト削減に取り組んだ結果、EBITDAについては計画値を達成いたしました。しかし、経済情勢は今後も引き続き厳しい状況が続くものとみられるため、今回の見直しではそれらを反映して、2012年度のEBITDA計画値を前回発表よりもさらに下方修正し、当初発表の目標値を下回る「1,420億円」となる見込みとなりました。

有利子負債(目標値の推移と今回見直しにおける計画値)

有利子負債については、当初発表では2012年度目標値を「1兆1,000億円以下」としておりましたが、その後、不動産流動化のために設立されたSPC(特別目的会社)に関する開示(オフバランス)に係る会計基準の厳格化を見据え、流動化資産についてはオンバランス化(買取り)等を進めていく計画に変更いたしました。これにより有利子負債が約700億円増加することになり、上記の当初発表の目標値は実質的に「1兆1,700億円以下」ということになりました。その後、上記のとおり2007年度の業績が好調に推移しEBITDAが計画値を上回ったことから、その目標値を「1兆1,300億円以下」に改定いたしました(2008年 4月 3日付発表)。ところが、2008年秋以降の事業環境の激変に伴うEBITDAの減少により、有利子負債の削減ペースが大幅に鈍化したため、不要不急の投資の削減等により投資計画の見直しを行ったものの、前回発表では有利子負債総額の2012年度末計画値は「1兆1,800億円」と上記の改定後の目標値「1兆1,300億円以下」よりも増加する計画としておりました。

足元におきましても引き続き、現状を踏まえた投資額・投資時期の精査等により、有利子負債の圧縮に努めておりますが、地価の下落等に伴い資産売却を当初の想定どおりに進めることが困難になってきていること等から、今回の見直しでそれらを反映した結果、2012年度末の有利子負債総額は「1兆2,300億円」と前回発表よりもさらに増加し、上記の改定後の目標値「1兆1,300億円以下」には届かない見込みとなりました。

2012年度目標値の推移と今回見直しにおける計画値			
	当初発表の目標値 (2007年 3月26日付発表)	改定後の目標値 (2008年 4月 3日付発表)	計画値 (今回発表)
EBITDA	1,500億円以上	1,600億円以上	1,420億円
有利子負債	※1 1兆1,000億円以下 ※2 1兆1,700億円以下	1兆1,300億円以下	1兆2,300億円
倍率	7倍程度	7倍程度	8.7倍

※1 流動化物件を全て再流動化する前提の下で策定した当初の目標値

※2 流動化物件のオンバランス化等を進めていく計画に方針転換(2008年 4月 3日付発表)した現行の前提条件に換算した目標値

以上のことから、誠に遺憾ながら、現行の中期経営計画に掲げる数値目標は、2012年度までには達成できない見込みとなりました。なお、このまま状況が改善していかない場合には、次回の見直しにおいて、2013年度以降の計画も併せて打ち出していまいります。

【参考】阪急阪神ホールディングスグループ 2007 中期経営計画 数値目標

経営管理指標	位置づけ	2012年度目標
連結営業利益	本業による収益力	1,000億円
連結EBITDA	キャッシュフロー創出力	1,600億円以上
統合効果	経営統合の定量的成果	EBITDA 50億円以上(2009年度以降毎年)
連結有利子負債 / EBITDA倍率	財務健全性	7倍程度
連結有利子負債総額	TOB資金の完済	1兆1,300億円以下
連結D / Eレシオ	財務健全性	2倍未満
連結ROE	資本効率	6.0%以上

今回の見直しにおける数値計画

① 経営管理指標に関する計画値 (億円)					
	2007年度実績※1	2008年度実績	2009年度実績	2010年度計画	2012年度計画
連結EBITDA	1,452 ※2 <1,432>	1,353	1,332 (1,330)	1,240	1,420 (1,540)
統合効果	22	46	71(71)	72	92(93)
連結有利子負債 / EBITDA倍率	8.8倍	9.4倍	9.6倍(10.2倍)	10.4倍	8.7倍(7.7倍)
連結有利子負債	12,711	12,756	12,826(13,600)	12,900	12,300(11,800)
連結D / Eレシオ	2.7倍	2.8倍	2.7倍(2.9倍)	2.7倍	2倍程度(2倍程度)
連結ROE	0.1%	4.4%	2.3%(4.2%)	4.2%	6.0%以上(6.0%以上)

()内は前回発表

※1 百貨店事業(㈱阪神百貨店(現㈱阪急阪神百貨店)及びその子会社4社、以下「阪神百貨店グループ」という)は2007年度上期まで連結子会社

※2 < >内は百貨店事業(阪神百貨店グループ)を除いた値

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 阪急・阪神の経営統合に伴うのれん償却額

* D / Eレシオ = 有利子負債 / 自己資本

* 億円単位の記載金額は億円未満を四捨五入して表示しております(以下同様)

② 連結業績の計画値 (億円)					
	2007年度実績※	2008年度実績	2009年度実績	2010年度計画	2012年度計画
連結営業収益	7,523	6,837	6,533(6,840)	6,510	7,100(7,500)
連結営業利益	907	778	701(700)	610	800(920)
連結経常利益	749	574	504(460)	400	600(690)
連結当期純利益	6	206	108(200)	200	300(360)

()内は前回発表 ※百貨店事業(阪神百貨店グループ)は2007年度上期まで連結子会社

③ 設備投資 (億円)		
	2007～2009 年度(実績)※1	2010～2012 年度(計画)※1
3ヵ年合計	※2 3,764(3,210)	2,220(2,110)
年平均	※2 1,255(1,070)	740(700)

()内は前回発表

※1 リース取引に関する会計基準の変更に伴い、2008年度以降の設備投資にはファイナンス・リース対応分を含めております。

※2 当該3ヵ年に期限を迎えた流動化物件の買戻しを含めております。(括弧書きで記載の前回発表の数値には、2009年度分の買戻しを含めておりません。)

④ 統合効果 (2012年度における統合効果の予想) (億円)		
	計画	主な内訳
売上シナジー	49(51)	都市交通25(25)、不動産18(21)、その他6(6)
コストシナジー	44(42)	都市交通19(18)、不動産7(7)、その他18(16)
合 計	92(93)	

()内は前回発表

※数値には2010年5月14日時点で実現可能性が高く、定量的に試算可能なもののみを計上。また、四捨五入の関係で内訳と全体は一致しておりません。

⑤ 各コア事業の数値計画 (億円)						
		2007年度実績	2008年度実績	2009年度実績	2010年度計画	2012年度計画
都市交通事業	営業収益	1,911	1,915	1,919(1,964)	1,914	1,898(1,966)
	営業利益	322	323	310(305)	270	299(341)
不動産事業	営業収益	1,798	1,702	1,685(1,741)	1,550	1,998(2,127)
	営業利益	417	337	309(282)	230	349(377)
エンタテインメント・コミュニケーション事業	営業収益	994	1,058	1,079(1,046)	1,057	1,145(1,172)
	営業利益	108	107	111(98)	105	119(123)
旅行・国際輸送事業	営業収益	795	658	629(664)	671	710(750)
	営業利益	31	15	3(19)	20	38(52)
ホテル事業※	営業収益	692	664	610(663)	691	729(695)
	営業利益	16	5	△17(0)	2	23(25)
流通事業※	営業収益	663	675	629(670)	545	580(708)
	営業利益	13	14	4(13)	4	11(20)

各数値は、今回発表の計画値・実績値(マネジメント・アプローチの適用に備えた新基準での数値)。また、()内は前回発表の計画値(2009年5月15日発表表値にマネジメント・アプローチを適用した換算値)

※2010年度計画から、①従来、流通事業に属する(株)クリエイティブ阪急等において営んでいた飲食業をホテル事業へ、②同社(造園業のみ存続)をコア事業外へ、それぞれ移行しております。

【ご参考】マネジメント・アプローチの適用について

国際財務報告基準(IFRS)へのコンバージェンスの一環として、セグメント情報の開示にマネジメント・アプローチ(企業の最高意思決定機関が意思決定や業績評価において使用する企業活動を区分した事業単位で開示する考え方)が導入されることとなったのを受け、今回の見直しから当社グループの中期経営計画についても、マネジメント・アプローチの適用に備えて、一部の処理方法を変更した新しいセグメント(コア事業別)情報に変更しております。処理方法の主な変更点は、以下のとおりです。

①保有資産のうち各コア事業への帰属が合理的であると判断されるものを各コア事業で計上するとともに、これに付随する保有コスト等についても各コア事業で負担(従来はコア事業外に計上)

②退職給付費用をすべて各コア事業で負担する処理方法に統一(従来は数理計算上の差異等について各コア事業で計上する会社と、コア事業外で計上する会社が混在)なお、マネジメント・アプローチが適用される2010年度以降、従来差異の生じていた、財務会計における「事業別セグメント情報」と、中期経営計画などに用いる「コア事業別情報」は一致することとなります。

また、当社グループでは、このマネジメント・アプローチの適用を機に、コア事業別EBITDAによる業績管理からコア事業別営業利益をベースとした業績管理に切り替えております。これを受け、コア事業別の数値計画につきましては、今回の見直しから営業収益と営業利益のみを記載することとし、前回発表まで記載しておりましたEBITDAについては記載を取り止めております。

計画期間中(2010年度～2012年度)の主な変動要因

都市交通事業	不動産事業	エンタテインメント・コミュニケーション事業	旅行・国際輸送事業	ホテル事業	流通事業
●阪神なんば線旅客増 	●梅田阪急ビルオフィスタワーの竣工 ●梅田阪急ビルのグランドオープン(2012年春) 	●ケーブルテレビ事業、情報通信事業の成長 	●募集型企画旅行の強化等の営業諸施策の推進(旅行) ●海外有望市場での展開や営業諸施策の推進、統合効果のさらなる発現(国際輸送) 	●WEB戦略の展開等による営業力の強化 ●効率的運営体制の実現 	●書店事業、雑貨事業の成長 

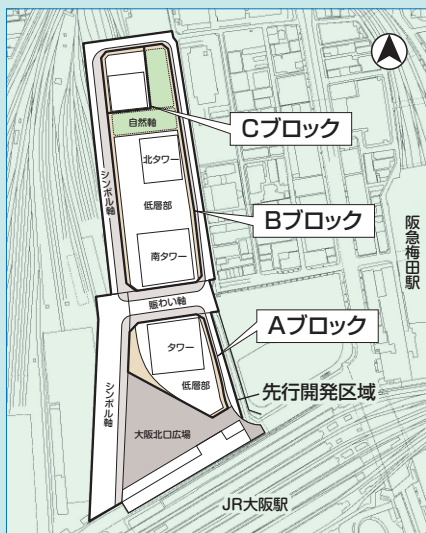
大阪駅北地区先行開発区域プロジェクト新築工事着工

3月31日、阪急電鉄㈱が参画する大阪駅北地区先行開発区域プロジェクトの新築工事がスタートいたしました。

三菱地所㈱等と共同で進める本プロジェクトのコンセプトは『「知の循環」によって豊かな未来生活を創出』。世界中から集う情報や人材が出会い、交わることで、大阪・関西から新たなビジネスやライフスタイルを発信するまちを目指してまいります。具体的には、『ナレッジキャピタル』(※)を中核機能として多様な都市機能を複合させ、大阪・関西の玄関口にふさわしい新たな拠点の形成を進めてまいります。

また、長期的ビジョンに立った運営の「しくみ」として、先行開発区域全体のエリアマネジメントを担う法人組織「TMO(Town Management Organization)」を設立し、公民連携、地域連携を図りながら、エリアブランディングを推進してまいります。さらに、環境共生への取り組みとして、大規模な屋上緑化・街区緑化、自然換気システム、太陽光発電の採用などに取り組んでまいります。

(※)ナレッジキャピタルは、企業、研究者、クリエイターが世界の「感性」「技術」を持ち寄り、交わり、コラボレーションすることで新たな価値を生み出していく複合施設です。



計画概要				
名 称	大阪駅北地区先行開発区域プロジェクト			
	Aブロック	Bブロック		Cブロック
所 在 地	大阪市北区大深町ほか			
敷 地 面 積	約10,571㎡	約22,680㎡		約4,666㎡
延 床 面 積	約187,800㎡	約295,100㎡		約73,800㎡
容 積 率	約1600%	約1150%		約1150%
階 数	地上38階 地下 3 階	(南タワー) 地上38階 地下 3 階	(北タワー) 地上33階 地下 3 階	地上48階 地下 1 階
高 さ	約180m	(南タワー) 約175m	(北タワー) 約154m	約174m
主 要 用 途	オフィス、 商業施設	オフィス、 ナレッジキャピタル、 商業施設、 ホテル・サービスアパートメント、 コンベンション		分譲住宅
駐 車 台 数	約400台	約600台		約270台

※計画概要は今後変更となる可能性があります。

阪急嵐山駅を四季折々の風情、歴史ある文化を反映した、趣ある駅舎・駅前広場へリニューアル

阪急電鉄(株)では、本年、開業100周年を迎えたことを機に、嵐山方面への観光誘致の促進に向けて、嵐山駅(京都市西京区)のリニューアルを進めております。

4月14日には、「景勝地嵐山の風情に似合う、行燈の優しい光に包まれた京町家をイメージした駅舎」をテーマに、昔ながらの面影を大切に残しつつ、屋根をいぶし銀調の金属瓦に葺き替え、外壁面には縦格子をあしらうなど、各所に和を意識したデザインを散りばめた、京町家風の趣ある装いに一新いたしました。照明器具は行燈をイメージしたデザインを施し、格子の間から漏れる光によって、景勝地らしい情緒あふれる空間を演出しております。

また、現在、10月上旬の完成を目指して、「周辺環境と調和し、嵐山の四季の風情に包まれる、心身共に心地よい空間」をテーマに、駅前広場の工事を進めてお



ります。駅前広場内には、築山と、ソメイヨシノ、シダレザクラ、クロマツ、イロハモミジなどの嵐山の代表的な植栽を配置し、四季折々の彩りを添えます。また、コントラストを利用したデザイン照明を施し、さらに春・秋には桜・紅葉のライトアップも実施するなど、四季の変化によって表情を変える夜の嵐山駅もお楽しみいただけます。

12

4月3日より、阪急西宮北口駅と阪神甲子園駅を結ぶバス路線の運行を開始



阪神バス

阪急バス(株)と阪神バス(株)では、4月3日より、阪急西宮北口駅と阪神甲子園駅を結ぶバス路線の運行を開始いたしました。

この路線は、土・日・祝日に、両駅間を1日16往復(阪急バス・阪神バスそれぞれ8往復)するもので、「阪急西宮ガーデンズ」「阪神甲子園球場」「ららぽーと甲子園」などへのアクセス向上を図っております。



阪急バス

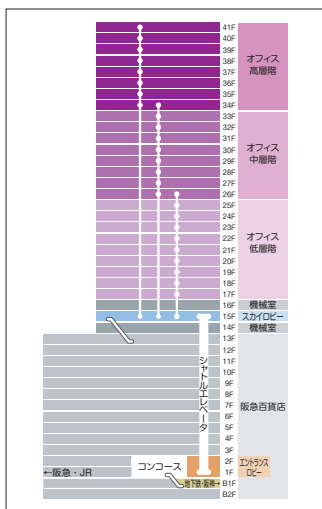
バス路線の概要	
運行経路	「西宮北口」～国道2号線経由～「阪神甲子園」 ※「西宮北口」は①番のりば(駅南側ターミナル)、 「阪神甲子園」は⑨番のりば(駅南側ターミナル)
運行時間帯	9:45～19:25
所要時間	約15分
運賃	大人210円、小児110円

梅田阪急ビル建て替えプロジェクト 「梅田阪急ビル オフィスタワー」が竣工しました



阪急電鉄㈱では、阪急百貨店うめだ本店の入居する梅田阪急ビルの建て替え工事を進めてまいりましたが、昨年9月3日のⅠ期棟低層部（百貨店部分）開業に続き、本年4月1日に「梅田阪急ビル オフィスタワー」が竣工いたしました。

このオフィスタワーは、西日本最大のターミナルである大阪・梅田の中でも屈指の立地ほか、ワンフロア850坪の広大な貸し床面積と機能性に優れたオフィススペース、オフィスサポートのための各ショップを配した憩いの空間としてのスカイロビー、省エネルギー設計による環境への配慮などの特徴を有しています。5月6日にオープンし、(株)クラレ、TOTO(株)、新日本有限責任監査法人などが順次入居いたします。



「ジオ グランデ梅田」の販売を開始しました



阪急電鉄(株)では、2008年12月より茶屋町東地区市街地再開発事業における建物の建築工事を進めてまいりましたが、本年4月より、タワー棟の中・高層部分(4階～31階)のマンション「ジオ グランデ 梅田」の販売を開始いたしました。

梅田の中心という希
少な立地で、真の都心型ライフスタイルを叶えるタ
ワー邸宅に、当初から多くの
反響を頂き、大変好調に販売
が進捗しております。

現地近くのモデルルームでは、完全予約制にてご見学を受け付けております。ぜひご来場いただき、当物件の価値をお確かめください。



「ジオ グランデ梅田」の概要

所在地	大阪市北区茶屋町200番(地番) 阪急「梅田」駅 徒歩 2 分
間取り	1R～3LDK+N
住居専有面積	32.35㎡～165.35㎡
総戸数	174戸(別途地権者住戸12戸あり)
竣工・入居時期	2011年 7 月
事業主(売主)	阪急電鉄(株)
販売提携(代理)	阪急不動産(株)

お問い合わせ

阪急不動産株式会社 ジョウ グランデ梅田 マンションギャラリー
TEL 0120-89-8601
(受付時間 10:00~18:00 水・木曜日定休)
<http://www.umedahankyu.com/>

お問い合わせ

阪急阪神ビルマネジメント(株) PM事業本部
テナント開発部 TEL 06-6343-9306
<http://www.umedahankyu-bldg.com/>

宝塚歌劇 2010年後半 公演ラインアップを発表

宝塚歌劇では、2010年後半に上演する公演ラインアップを発表いたしました。

2010年後半 公演ラインアップ			
公演組	作 品 名	宝塚大劇場	東京宝塚劇場
宙 組	グラン・ステージ『TRAFALGAR』 ーネルソン、その愛と奇跡ー	5/21 }	7/9 }
	グランド・ショー 『ファンキー・サンシャイン』	6/21	8/8
雪 組	ミュージカル『ロジェ』	6/25 }	8/13 }
	ショー『ロック・オン!』	7/26	9/12
花 組	ミュージカル『麗しのサブリナ』	7/30 }	9/17 }
	スパークリング・ショー『EXCITER!!』	8/30	10/17
月 組	ミュージカル 『ジプシー男爵』ー Der Zigeuner-baron ー ～ヨハン・シュトラウスⅡ世 喜歌劇『ジプシー男爵』より～	9/3 }	10/22 }
	グランド・レビュー『Rhapsodic Moon』	10/4	11/21
星 組	宝塚レビュー 『宝塚花の踊り絵巻』ー秋の踊りー	10/8 }	11/26 }
	ミュージカル『愛と青春の旅立ち』	11/8	12/26
宙 組	ミュージカル 『誰がために鐘は鳴る』	11/12 }	未定
		12/13	

お問い合わせ

宝塚歌劇インフォメーションセンター
☎ 0570-00-5100(受付時間10:00～17:00 水曜日定休)
<http://kageki.hankyu.co.jp/>(宝塚歌劇公式ホームページ)

宝塚歌劇の新たな公式携帯サイト 「タカラヅカチャンネル」を開始

阪急電鉄(株)では、宝塚歌劇公演の映像や音楽などのコンテンツを携帯電話でお楽しみいただける有料配信サービス「タカラヅカチャンネル」を、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルの各社の携帯電話向けに開始いたしました。

宝塚歌劇の公式携帯サイトとしては、2001年1月以降、「モバイルタカラヅカ」を公開し、公演内容やチケット情報、出演者に関する最新情報などをお届けしておりますが、今回、新たに開始した「タカラヅカチャンネル」は、携帯電話への動画・音楽等の配信専門サイトとして、宝塚歌劇公演のハイライト映像や主題歌、劇中歌を使用した着うたなどのコンテンツを配信するものです。



トップ画面イメージ

お問い合わせ

(株)宝塚クリエイティブアーツ
カスタマーセンター ☎ 0797-83-6000
(受付時間 10:00～17:00 水曜日定休)
<http://takach.jp/>



第1回「宝塚歌劇検定」を実施

宝塚歌劇検定委員会(株)阪急コミュニケーションズ内)では、3月28日に、東京、大阪、兵庫の計3会場で、第1回宝塚歌劇検定を実施し、約4,200人の方が受験されました。

宝塚歌劇検定は、誕生から95年の伝統を受け継ぎながらも、常に時代を先取りした作品を発表し続けている宝塚歌劇をもっと楽しんでいただき、新たな魅力を

発見していただくためのものです。

第1回検定では、2級・3級の実施でしたが、10月に実施予定の第2回検定では、2級認定者を対象にした1級についても実施する予定です。

お問い合わせ

宝塚歌劇検定委員会(株)阪急コミュニケーションズ内)
☎ 0570-064-769
(受付時間 10:00～17:00 土・日・祝日を除く)
<http://www.takarazuka-kentei.jp/>

3月14日、「甲子園歴史館」オープン

阪神電気鉄道(株)では、85年以上にわたる阪神甲子園球場の歴史と、同球場を舞台として数々のドラマを生んできた阪神タイガースや春・夏の高校野球などの歴史を後世に伝える展示施設として、外野スタンド下に「甲子園歴史館」をオープンいたしました。

また、普段の観戦時には見ることができない球場の裏側をご案内する「阪神甲子園球場スタジアムツアー」も、新たに開始いたしました。



甲子園歴史館の概要

場 所	阪神甲子園球場外周16号門横
入 館 料	おとな500円 こども300円 ※こどもは4歳から中学生まで
開館時間	10:00～18:00(最終入館17:30) ※高校野球開催時、季節などにより変動
休 館 日	月曜日(試合開催日、祝日を除く) ※年末年始、館内メンテナンスなどによる休館あり

阪神甲子園球場スタジアムツアーの概要

見学場所	3塁ベンチ、3塁ブルペン、3塁ロッカールーム、グラウンド(人工芝部分のみ)など ※コースによって異なる
料 金	おとな1,500円 こども1,000円 ※上記料金には、歴史館入館料を含む ※こどもは4歳から中学生まで
参加人数	30名程度(1便あたり)
所要時間	約50分間
開催日時	試合などの催し物の開催有無によって異なる ※高校野球開催期間中は開催なし

お問い合わせ

甲子園歴史館 ☎0798-49-4509
スタジアムツアー予約 ☎0798-44-3310
(予約専用：受付時間10:00～17:30 月曜を除く)
<http://www.koshien-rekishikan.com/>

六甲山の新しいランドマーク！ 自然体感展望台「六甲枝垂れ」が7月完成予定

阪神電気鉄道(株)では、現在、阪神総合レジャー(株)が運営する六甲ガーデンテラス内の「回る十国展望台」跡地に、六甲山の新しいランドマークとなる自然体感展望台「六甲枝垂れ」の建設を進めております。

この展望台は、阪神総合レジャーと社団法人日本建築家協会近畿支部が共同開催した設計コンペティションにおいて、応募総数103作品の中から最優秀賞に輝いた、注目の若手建築家「三ッ方 博志」氏の設計によるもので、全体を覆う大きなフレームを特徴としており、六甲山の四季折々の自然環境と一体となった、体感型の新しい展望台として、7月13日に完成する予定です。



自然体感展望台「六甲枝垂れ」昼間の風景(イメージ)



自然体感展望台「六甲枝垂れ」夜の風景(イメージ)

お問い合わせ

六甲ガーデンテラス
☎078-894-2281(受付時間9:00～21:00)
<http://www.rokkosan.com/>
(六甲山 レジャースポット ポータルサイト)

旅行事業部門を(株)阪急交通社とその子会社(株)阪急阪神ビジネストラベルに再編

旅行事業については、これまで(株)阪急交通社と阪神航空(株)が並列の関係で事業を営んでおりましたが、4月1日、(株)阪急交通社が募集型企画旅行・手配団体旅行・外国人旅行などの主催旅行を、その子会社の(株)阪急阪神ビジネストラベルが法人向け業務渡航を、それぞれ取り扱う体制に移行いたしました。

このたびの事業形態別の再編により、①意思決定、経営・営業管理の迅速化、②海外主催旅行No.1に向けた体制強化、③業務渡航におけるサービス向上とシェア拡大を図り、旅行事業における国内外でのさらなる発展・成長を目指してまいります。

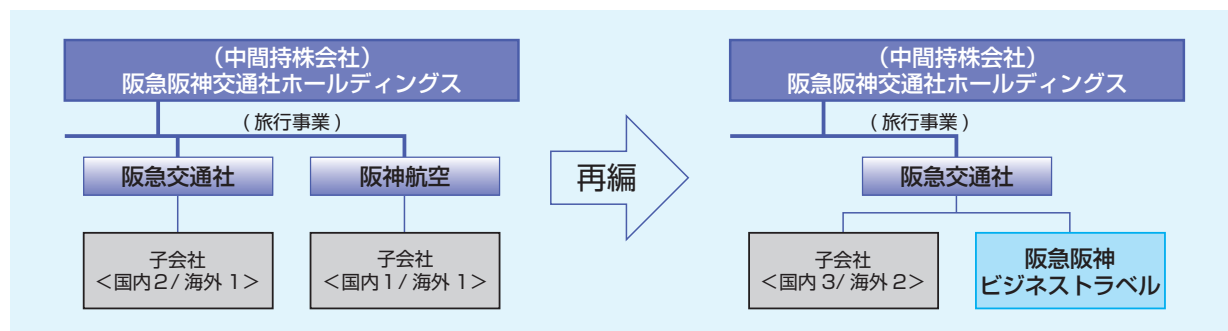


心に届く旅
阪急交通社

Direct to your heart



まかせて安心。プロの旅。
阪急阪神ビジネストラベル



16

業界初となる関西国際空港内での倉庫管理業務を取扱開始

(株)阪急阪神エクスプレスでは、大手家電メーカーの電子部品の倉庫管理業務を関西国際空港内の自社倉庫で全面的に取り扱うことになり、2月1日より運用を開始いたしました。

これまで同メーカーの複数の施設内で提供してきた倉庫管理サービスを関西国際空港に集約することで、お客様にとってコスト削減、時間短縮等の面から大幅な物流改善となります。

関西国際空港内におけるこのような倉庫管理業務は

業界初の試みであり、今後も阪急阪神エクスプレスでは、カスタムメイド・ロジスティクスでお客様のサプライ・チェーン・マネジメントの最適化をサポートしてまいります。



2010年 阪急阪神第一ホテルグループ 料理コンテスト「グランプリ・セレクション」全 4 作品を販売

阪急阪神第一ホテルグループでは、今年で5回目となる「阪急阪神第一ホテルグループ 料理コンテスト」を開催し、料理部門では「ランチで提供するハンバーグ風『創作料理』」、デザート部門では「ロールケーキ」をテーマに、全国の若手シェフ194名が味と技を競い合いました。

厳正なる審査を勝ち抜いた、最優秀グランプリを含む全 4 作品「グランプリ・セレクション」を一部のグループホテルで7月末まで販売いたします。

詳しくは、阪急阪神第一ホテルグループのホームページをご覧ください。

グランプリセレクション

検索



「野菜畑のロールケーキ」(大阪新阪急ホテル 児玉亜沙美 作)

お問い合わせ

(株)阪急阪神ホテルズ 営業企画部
TEL 06-6377-5743
(受付時間10:00～17:00、土・日・祝日を除く)

4月12日、大阪新阪急ホテルに串揚げ店をオープン

(株)阪急阪神ホテルズでは、4月12日、大阪新阪急ホテル地下1階に、串揚げ店「なにわ橋」(直営)をオープンいたしました。

ホテルが培った和洋中の技法を取り入れ、ホテルシェフによる新しい串揚げのスタイルとしてお届けしております。



なにわ橋の概要

店 舗 名	串揚げ「なにわ橋」
所 在 地	大阪市北区芝田1-1-35 大阪新阪急ホテル地下1階
電話番号	06-6372-5261
営業時間	ラ ン チ 11:30～17:00 ディナー 17:00～21:30(ラストオーダー 21:00)
定 休 日	無休
席 数	22席
料 金	ラ ン チ 串揚げセット 1,200円～ (串8本、サラダ、ご飯、漬物、味噌汁付) ディナー 串揚げおまかせコース 2,800円～ (串10本、お野菜、デザート付)

4月1日、「ブックファースト アトレ吉祥寺店」がリニューアルオープン



(株)阪急リテールズでは、4月1日、JR中央線吉祥寺駅高架下の商業施設が「atré(アトレ)吉祥寺」としてリニューアルしたのにあわせて、「ブックファースト アトレ吉祥寺店」をリニューアルオープンいたしました。JR中央線と京王井の頭線が乗り入れる吉祥寺駅直結という立地を活かし、利便性の高い店舗として多くのお客様にご利用いただいております。

また、主要ジャンルの品揃えはもちろん、新刊・話題書や吉祥寺周辺の最新トレンドを紹介した書籍なども充実しております。

「ブックファースト アトレ吉祥寺店」の概要

所在地	東京都武蔵野市吉祥寺南町1-1-24 アトレ吉祥寺2階
電話番号	0422-23-7671
店舗面積	446㎡
営業時間	10:00~22:00
定休日	不定休(年2回)
URL	http://www.book1st.net/

環境保全への取り組み



アズナス阪神西梅田店

(株)阪急リテールズでは、阪神梅田駅西改札口前のコンビニエンスストア「アズナス阪神西梅田店」のリニューアルオープンにあたり、環境に配慮した内装設備

(LED照明、セラミックタイル、インバータ方式の空調及び冷蔵ショーケース)を導入いたしました。これにより、店舗に起因するCO₂排出量について、通常のリニューアル時と比較して年間約15.4tの削減効果を見込んでおります。

今後もアズナスでは、新規出店や店舗施設・設備のリニューアルにあたり、環境保全への取り組み店舗を順次増やしていきたいと考えております。

アズナス阪神西梅田店の特徴

1. LED照明の導入

売場内の照明、看板照明、間接照明、冷蔵ショーケース照明をLED照明にし、電気使用量を削減いたします。

2. 床面セラミックタイルの導入

光の反射率が高いため照明の数を抑制できることにより、省エネルギーを実現いたします。また、ワックス等のメンテナンス頻度が削減できるため、環境負担が軽減されます。

3. 空調設備へのインバータ方式の導入

室温に応じた最適な運転を維持し、無駄な温度の変動を抑えます。

4. 冷蔵設備へのインバータ方式と電子膨張弁の導入

庫内温度をもとに負荷状態を把握。季節変動や環境変化など、ケースの状態に合わせて常時設定を最適化させます。

株主メモ

決算期

3月31日

定時株主総会

6月

基準日

定時株主総会権利行使株主確定日 3月31日

期末配当金受領株主確定日 3月31日

単元株式数

1,000株

株主名簿管理人

特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

TEL. 0120-094-777 (通話料無料)

公告方法

電子公告(但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載)

電子公告掲載 URL: <http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp/ir/>

単元未満株式(1~999株)をご所有の株主の皆さまへ

次のいずれかの方法により、ご所有の単元未満株式を整理していただくことができます。なお、単元未満株式が特別口座で管理されている場合、手数料は無料です(証券会社で管理されている場合の手料は、各証券会社にお問い合わせください。)

1. 買取請求

ご所有の単元未満株式の市場価格での買取りを請求していただく制度です。

→ご所有の単元未満株式がなくなります。

2. 買増請求

ご所有の単元未満株式を単元株(1,000株)にするために必要な株数を市場価格で買い増していただく制度です。→ご所有の単元未満株式が単元株となります。

株主優待方法

2010年6月現在

優待基準株数	優待内容 株主優待回数乗車証 (阪急・阪神共通回数カード)	株主優待乗車証 (全線バス)	グループ 優待券
1 ~ 999	—	—	1冊
1,000 ~ 2,399	4回カード×1枚 (4回乗車分)	—	
2,400 ~ 4,999	4回カード×3枚 (12回乗車分)	—	
5,000 ~ 9,999	25回カード×1枚 (25回乗車分)	—	
10,000 ~ 30,999	30回カード×2枚 (60回乗車分)	—	
31,000 ~ 48,999	①30回カード×2枚 (60回乗車分)	—	
※①②のいずれかを選択	②10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪神電車全線バス1枚	
49,000 ~ 79,999	①10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス1枚	1冊
※①②のいずれかを選択	②10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪神電車全線バス1枚	
80,000 ~ 999,999	10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス1枚 + 阪神電車全線バス1枚	
100万以上	10回カード×1枚 (10回乗車分)	阪急電車全線バス10枚 + 阪神電車全線バス10枚	

1) 阪急電車全線バスの通用区間：阪急電車線全線(神戸高速線を除く)

2) 阪神電車全線バスの通用区間：阪神電車線全線(神戸高速線を除く)

3) 共通回数カードの通用区間：阪急電車線及び阪神電車線全線(神戸高速線を除く)

4) グループ優待券：入場券、宿泊・飲食割引券、旅行割引券、その他の特別優待券など

5) グループ優待券のご利用範囲につきましては券面をご参照ください。

6) 優待につきましては、9月30日、3月31日の株主名簿に基づき、それぞれ11月下旬、5月下旬に発送いたします。(年2回)

株式のお手続きに関するお問い合わせ先

手続きの内容	株式口座の開設先	証券会社	特別口座(※)
住所変更、単元未満株式買取請求等の各種お手続き	口座開設先の証券会社	—	三菱UFJ信託銀行株式会社(口座管理機関) 大阪証券代行部 TEL. 0120-094-777 (通話料無料)
特別口座から証券会社の口座への振替請求			

※2009年1月5日の株券電子化時に、株券をお手元に保管されていた株主様の株式(登録株を含む。)につきましては、特別口座で管理されております。
特別口座で管理されている株式につきましては、一般口座にお振替いただくことができます。三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部までお問い合わせください。

発行：阪急阪神ホールディングス株式会社

〒530-0012 大阪市北区芝田一丁目16番1号 TEL 06-6373-5100 FAX 06-6373-5670

当社グループの経営につきまして、株主様のご意見・ご感想をお待ちしております。 <http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp/voice/>

株主通信は、環境に配慮し、植林木・無塩素漂白で製造された用紙と、大豆油インキを使用しております。

